

地域学習の効果的な指導のために — 単元構想図をもとにした授業展開の工夫 —

長期研究員 岩橋 康 紀

I 研究の趣旨

小学校学習指導要領社会科では、第3学年及び第4学年の目標として、地域社会の学習を主題として設定している。この2学年では、地域学習を通じた社会的な態度や能力を養うことが重要である。

しかし、実際に地域学習の実態を考えると、様々な問題が浮かび上がってくる。まず、教科書の事例と自分たちの住んでいる地域の事例が違うために、教科書を有効に活用した授業が難しいことが挙げられる。次に、地域学習を進めるにあたり、教員が地域を知り、学習に適した地域素材を見付け、さらに、その地域素材を教材化し授業を展開することは容易なことではない。また、教材化を図る有効な手段が分からない等の声も聞かれる。これらの問題を解決するためには、教員が地域素材から地域学習のねらいに沿った教材化を図り、授業を構想していく段階での教材研究を充実させることが重要である。

以上のことから、地域学習のねらいに沿った地域素材の教材化の方法を示すことや効果的な指導をするために十分な単元構想をしてから授業展開をすることが必要と考え、本主題を設定した。

II 研究の概要

1 研究仮説

地域学習を効果的に指導するために、地域素材の教材化を図り、その中で「教材化の手順」をもとにして、どの地域どの事例でも活用できる基本構想となるものと、地域と事例の実態に当てはめ細分化した「単元構想図」を作成する。作成した「単元構想図」をもとに、「学習の視点」を明確にした授業を展開することにより、地域学習のねらいに迫るとともに、児童の地域社会の一員としての自覚を深めることができるであろう。

2 研究の内容と実際

以下に述べる、三つの手立てをもとに研究実践を

進めた。

(1) 「教材化の手順」の作成

地域素材を地域学習のねらいに合わせ、どのような視点で教材化していけばよいかを「教材化の手順」図1として示した。これを活用することで、地域素材の教材化がしやすくなり、指導にもつなげることができると考えた。

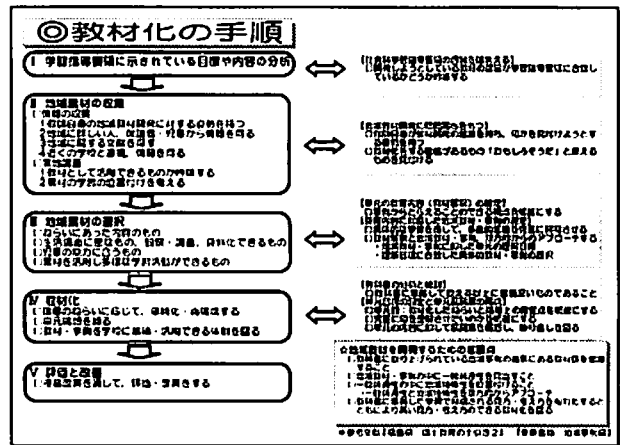


図1 教材化の手順

(2) 「単元構想図」の作成

地域素材を教材化し、実際に授業を展開していく場合に効果的な指導をするための手立てとして、単元の目標や展開、指導事項を図に表した単元構想図が有効であると考えた。

地域学習を行う場合、地域事例が教科書で取り上げられている事例と違うことが多く、それらを結び付けて有効に授業を展開することは難しい。そこで、本研究では、地域の実態やそれぞれの地域事例に当てはめて使用できる視覚的にもとらえやすい「単元構想図」を作成した。以下に挙げる四点を本研究における「単元構想図」を活用するよさと考えた。

- 単元全体を見通せる。
- 指導事項やねらいを網羅できる。
- 実態に即した学習展開が可能である。
- 単元の構成を段階にして分けることができる。

図2の「単元構想図」の基本構想とは、学習指導

効果的な相互評価の場となった。

③ 「論の構成の意識化」を図り、書く活動に結び付けるためのグループでの学習

グループで調べた環境問題についての資料を使って、ワークショップ形式で発表する側と聞く側に分かれ意見交流をした。発表資料の内容には、環境問題の「原因」、「問題点」、「対策」の三つの項目を必ず入れ、グループの中で分担して作らせた。なお、これらの項目は、この後の個人で書く意見文の内容と同じものになるようにし、論の構成のモデルとしても活用することをねらった。

(3) 論の構成の意識を高めるためのスモールステップで書く活動の設定

論の構成を意識して書く活動のイメージは、図2のようになる。

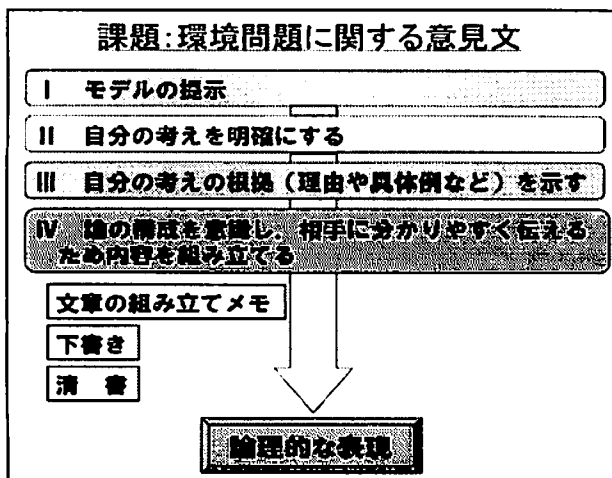


図2 論の構成を意識して書く活動のイメージ図

初めに、児童に意見文のモデルを提示し、作品の概観をつかませた。その上で、自分の考えを明確にする段階、自分の考えの根拠（理由や具体例）を示す段階、相手に分かりやすく伝えるため内容を組み立てる段階を位置付け、スモールステップで書く活動を設定した。特に、内容を組み立てる段階では、ワークシートの活用を図り、さらに細かなステップで内容や表現を吟味して意見文を書かせた。

このようなステップで書かせた意見文を分析すると、以下のような点で論理的な表現の条件を満たした文章になった。

- ① 原稿用紙1枚（400字程度）、四段落の条件を満たして書かれている。
- ② 一貫した主張がある。

③ 具体的な事例を取り上げ、自分の考えに根拠付けをしている。

④ 段落のつながりを考えて、つなぎ言葉を適切に使っている。

⑤ 自分の主張を「始め」と「終わり」に述べる双括型の文章で構成している。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

(1) 論の構成に意識を向けさせたことにより、意見文において自分の考えと根拠を効果的に組み立て、相手に明確に伝える論理的な表現が見られるようになってきた。

(2) 論の構成の意識を高めるために重点化を図った単元構想によって、自分の考えが明確になるよう文章の組み立てを考えることができた。また、相手の論の構成の意図にも気付くことができた。

(3) 内容や表現を吟味する視点を持たせた交流によって、友達の文章の内容、論の展開のよさに気付き、自分の表現に生かすことができた。また、作品を自己評価したり、児童同士で相互評価したりする力の高まりが見られた。

(4) スモールステップで書く活動によって、論の構成を意識化させるとともに、相手に対し自分の考えや意見を明確に伝えることができるようになってきた。また、書くことが苦手な児童にとっては、書く内容と手順が明確になり、段落のつながりを考えた文章が書けるようになってきた。

2 課題

(1) 交流によって学習を深めるためには、多くの資料から情報を取り出したり、精選したりする力が必要である。また、自分たちが書いた文章の内容や表現を児童自身や児童相互で吟味する力をより高める必要がある。

(2) 論理的に表現する力は、本単元だけの学習で育つものではない。児童の実態に応じて、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」など他の領域と関連させた言語活動の中で継続的に指導する必要がある。

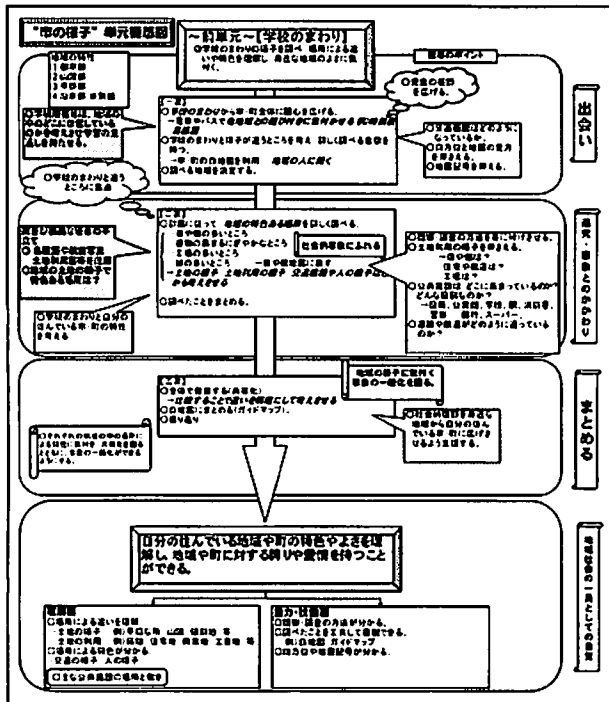


図2 単元構想図「市の様子」基本構想

要領で示されている目標をもとにして、どの地域やどの事例でも共通しているねらいや学習内容を観点として示したものである。

「単元構想図」の基本構想から、さらに、地域や学校の実態に即した授業展開が可能になる

ように地域の特性を考えた細分化したものを作成した。図3は単元構想図「市の様子」の細分化「都市部」である。こうすることで、地域の実態や事例に応じた効果的な指導ができるようにした。

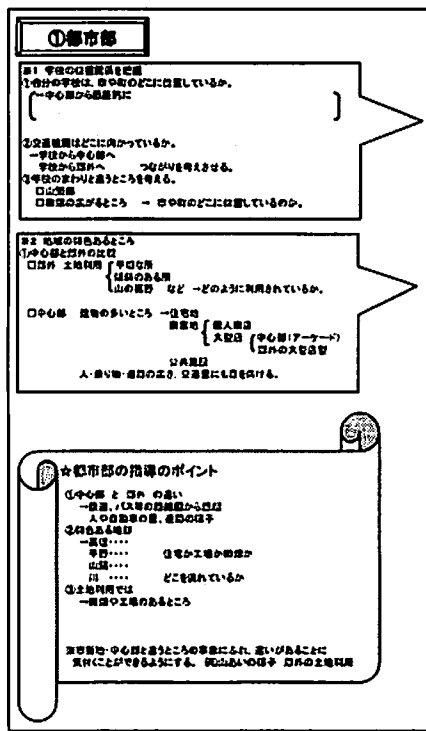


図3 細分化「市の様子」

単元構想図を作成した実践単元

第3学年「市の様子」

基本構想(図2)、細分化「都市部」(図3)。

「平野部」, 「山間部」, 「沿岸部」

第4学年「地域の発展に尽くした先人」

基本構想、細分化「用水」, 「なし畑」

(3) 目標や指導内容に沿った「学習の視点」の作成
単元構想図をもとにした授業展開から、さらに、学校や児童の実態に沿った内容や指導事項をより段階や一単位時間ごとに具体的に明記した「学習の視点」を作成した。

「学習の視点」のねらいや期待できる効果を以下のようにとらえ、実践した。

- 単元構想図からさらに実態に合わせ、詳細な視点を示すことができる。
- 単元の各段階や一単位時間で押さえたい内容や指導事項を示すことで、きめ細やかな指導ができる。
- 授業展開の中で、どの場面でのどのような展開や指導をしていけばよいか把握できる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- (1) 「教材化の手順」を作成したことで、教材化の方法が明らかになり、地域素材をねらいに沿って教材化することが容易にできた。
- (2) 「単元構想図」を作成することで、単元全体を見通した教材研究ができた。また、「単元構想図」をもとに地域の実態に即した学習を展開することができた。さらに「学習の視点」を示すことで、より指導内容が明確になり、単元のねらいからそれることなく、効果的な指導をすることができた。
- (3) 児童は、表面的な社会的事象の理解や判断にとどまらず、地域のよさや自分たちの生活とのかかわりについて気付き、地域に対する理解や愛情が深まり、地域学習のねらいに迫ることができた。

2 課題

- (1) 「教材化の手順」から「単元構想図」の作成方法について、さらに短時間かつ容易に教材化ができるように、改善を図っていきたい。
- (2) 児童の違う視点で調べてみたいや違う方法でまとめたいなどの多様な学習意欲に対応できる幅を持たせた学習展開を考えていきたい。